

秋-9 大丈夫、大丈夫

1. 活動の目的

- ①失敗したり、落ち込んだりした経験と、その時どうやって乗り切ったか、話す。
- ②慰めたり励ましたりする表現を知り、「大変ですね」プラスアルファの一言が言えるようになることにより、より親密な人間関係を築けるようになる。

2. 準備するもの (☆は教材ファイルにあるもの)

特になし

3. 活動の手順 **留**: 留意点 **参**: 参考 **発**: 発展的活動

活動1

- ・マリアさんの例を読んで、思ったことを話す。
- ・今までの失敗の経験を話してもらおう。失敗して落ち込んだ時、どんな方法で乗り切ったか聞く。気分転換の方法を聞いてみる（人に話すか、一人で気分転換するか、など）ボランティアも自身の経験を話す。
- ・学習者自身が慰められたり励まされたりした経験を話す。誰が、何と言って（またはどうやって）慰めたり励ましたりしてくれたか、そのとき、どんな気持ちだったか、など。

留 話したくないことは無理強いしないこと。

活動2

- ・つらいことがあった時いつも思い出す、心の支えとなる言葉があるか聞いてみる。歌や詩でもよい。日本語でどんな意味か聞く。
- ・マリアさんの立場から、落ち込んでいるゆう子さんを励ます。自由に発言してもらおう。

留 慰め方、励まし方はいろいろあるし、文化的な違いもあるだろう。学習者から言葉が出たらまずは否定せずに受け止めること。

活動3

～活動5

- ・会話例を見ながら、慰め方、励まし方のいろいろな表現を紹介する。
- ・例を読んで意味がわかったら、会話を練習する。
- ・次に、《練習》何と言ったらいいか考える。ボランティアは手助けする。Aさん役（失敗を話す）とBさん役（慰める）とでロールプレイする。

発 さらに練習するのもよい。ケース例：

*彼女を映画に誘ったが、またフラれた。3回目だ。(活動3の練習)

*買ったばかりの白いじゅうたんに、熱いカレーの鍋を落とした。(活動4の練習)

発 それぞれのパターンを使ってうまく言えるようになったら、ボランティアが失敗談を言い、学習者に慰めてもらうロールプレイをする。

留 悩みではなく失敗談にすること。

発 慰め・励ましの表現にはほかにも次のようなものがある。よくできる学習者には紹介してもいいだろう。

- (例)
- ・肯定して安心させる。
 - ・手伝ってあげると言う。「私にできることあったら言ってね」「話ならいくらでも聞くよ」など
 - ・「よくあることだ」「大したことじゃない」と言う。
 - ・あなたが必要だと言って励ます。
 - ・2つ以上のパターンを組み合わせることも多い。

発 会話例は、実際の会話よりもシンプルになっている。よくできる学習者の場合、より自然な会話にして練習するとよい。

(例) A: 引っ越しすることになってね。B: えーっ！ どうして？ いつ？ どこ行くの？
.....

発 「気を落とさないで」「形あるものは必ず壊れる」「時間が解決してくれる」「明けな夜はない」など、学習者の国にも同じような言い方があるかどうか聞いてみる。